

国際結婚夫婦の組み合わせに対する民族とジェンダーの交差性の影響

——日本全国・東京都区部・名古屋市・大阪市の人口動態統計データによる検討——

同志社大学 藤岡勲

1 目的

結婚は社会的距離の指標とみなされることもあることから、国際結婚夫婦の組み合わせは、グローバル化が進む日本社会において重要なテーマとなるだろう。しかし、民族とジェンダーという属性の交差性（intersectionality）が国際結婚夫婦の組み合わせに対して持つ影響は、実証的には十分に検討がなされていない。また、このテーマに関しては、エリアごとの違いもあり得るが、その点も十分に検討されていない。本報告は、国際結婚夫婦の組み合わせに対する民族とジェンダーの交差性の影響についての検討を、日本全国、および、東京都区部・名古屋市・大阪市という4エリアを対象に行う。

2 方法

データとして、上記4エリアの人口動態統計（1996～2015年）における国際結婚数に関する値を用いた。それらのデータをもとに、各エリアに対し、妻および夫ごとに、①国籍（日本以外）として国際結婚数に占める割合の大きい上位3か国を同定し、②上位3か国の割合の推移を図示した。

3 結果

図1および図2の結果から、4エリアに共通して、①女性が外国籍の国際結婚では韓国・朝鮮、中国、フィリピンが上位3か国、②男性が外国籍の国際結婚では韓国・朝鮮、中国、米国が上位3か国となっていた。しかし、割合の値および推移に関しては、各エリアによって異なる傾向が見られた。

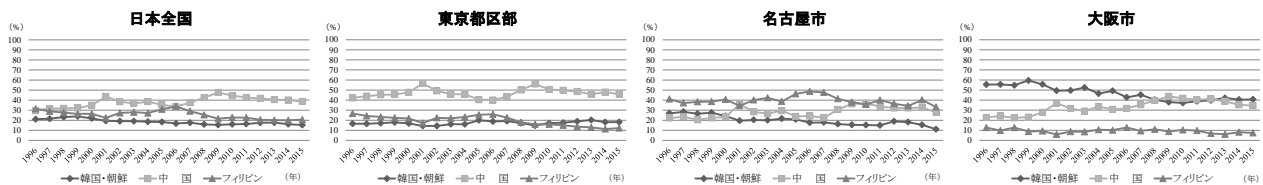


図1 妻の国籍（日本以外）として割合の大きい上位3か国の割合の推移

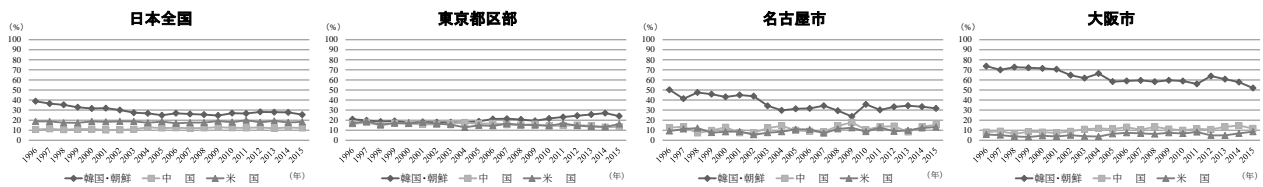


図2 夫の国籍（日本以外）として割合の大きい上位3か国の割合の推移

4 結論

4エリアにわたる共通性から、国際結婚の組み合わせに対して、日本社会に通底するような民族とジェンダーの交差性による影響があることが示唆された。他方、4エリアごとの傾向の違いから、エリア特有の影響があることも示唆された。今後は、このような民族とジェンダーの交差性による影響と、エリア特有の影響を考慮した、研究および実践活動の展開が求められる。

付記 本研究は科研費 17K13951 の助成を受けたものです。